

2020年度第1回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ はこべら賞

はこべらは、ナデシコ科ハコベ属の越年草。全国各地に広く分布し、高さは10~30cm。茎は緑色で柔らかく、卵形の葉が対生する。春から夏にかけて、多数の白い花をつける。花言葉は「愛らしい」「追想」。

○ 中京スポニチ賞

中京スポニチは、スポーツニッポン新聞社から発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 豊橋特別

豊橋（とよはし）は、愛知県南東部の市。豊川下流南岸に位置する。松平氏の城下町、東海道五十三次の吉田宿、二川宿として発展した。また、遠州灘沿いの表浜海岸はアカウミガメの産卵場所として知られる。西部には、自動車の輸入台数、金額ともに国内最大規模を誇る三河港を中心に臨海工業地帯が形成されている。

<第2日>

○ 茶臼山高原特別

茶臼山高原（ちゃうすやまこうげん）は、愛知県北東部に位置する高原地帯。標高1,415mの茶臼山を中心に広がり、一帯は天竜奥三河国定公園に指定されている。山頂付近は芝桜が群生しており、「芝桜の丘」と呼ばれている。

○ 豊明ステークス

豊明（とよあけ）は、愛知県中部の市。名は、酒造業を営んでいた伊藤家の屋号「豊倉屋」の「豊」と、当時の元号「明治」の「明」に由来する。桶狭間の古戦場跡があることで有名。なお、同市は中京競馬場の所在地でもある。

○ 伊勢特別

伊勢（いせ）は、三重県東部にある市。伊勢神宮の鳥居前町として発展した。伊勢神宮は天照大御神と豊受大御神を祭神とし、神体は八咫鏡であり、古くから「お伊勢参り」の参詣者が多く訪れる。

<第3日>

○ フローラルウォーク賞

フローラルウォーク（花の遊歩道）は、名鉄名古屋本線中京競馬場前駅から中京競馬場までを結ぶ屋根付きの通路の愛称。上屋は四季折々の花で飾られている。平成17年に名古屋競馬株式会社の施工により完成したもので、雨の日も濡れることなく駅と競馬場を往復することができる。

○ 中京スポーツ杯

中京スポーツは、東京スポーツ新聞社の中部支社から発行されている夕刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 刈谷特別

刈谷（かりや）は、愛知県中部の市。地名は、元慶元年（877）に出雲から一族を連れ移住した狩谷出雲守の名に由来する。また、伊勢湾岸自動車道直結の複合施設、刈谷ハイウェイオアシスが有名で、高速道路の利用客に加え、多くの観光客で賑わっている。

<第4日>

○ 昇竜ステーキス

昇竜（しょうりゅう）は、空に昇っていく竜のこと。勢いがよいことの例えに用いられる。

○ トリトンステーキス

トリトン（Triton）は、ギリシャ神話の海の神ポセイドンの息子の名。名古屋港に架かる名港西大橋・名港中央大橋・名港東大橋の3つの橋は「名港トリトン」と呼ばれ、ドライブコースとして人気がある。

○ 伊良湖特別

伊良湖（いらご）は、愛知県田原市、渥美半島の先端に位置する町。伊良湖岬周辺は、1月上旬から3月下旬ごろまで咲く菜の花の名所として有名。同岬と三重県鳥羽市の神島との境の海峡は、伊良湖水道と呼ばれ、古くは潮流が速く暗礁もあるため航海の難所として知られていた。

<第5日>

○ 熱田特別

熱田（あつた）は、名古屋市南部の区。熱田神宮の門前町として発展した。江戸時代には宮宿と呼ばれ、東海道最大の宿場町として栄えた。熱田神宮は熱田大神を祭神とし、神体は草薙神剣であり、「熱田さま」「宮」として親しまれている。

○ 中日スポーツ賞ファルコンステークス（GⅢ）

本競走は、昭和62年に『中日スポーツ賞4歳ステークス』の名称で創設された重賞競走。創設当初は1800mで実施されていたが、平成8年に距離が1200mに短縮され、13年に現在の名称となった。その後、重賞競走体系の見直しに伴い、18年には実施時期が6月から3月へと移された。また、24年には距離が1400mに延伸された。

ファルコン（falcon）は、ハヤブサを意味する英語。

中日スポーツは、中日新聞社から発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 瀬戸特別

瀬戸（せと）は、愛知県北部の市。良質の陶土を産し、日本有数の陶磁器の産地として有名。陶磁器の代名詞である「せともの」という言葉は「瀬戸（でつくられた）もの」に由来する。

<第6日>

沈丁花賞

沈丁花（じんちょうげ）は、中国原産のジンチョウゲ科の常緑低木。早春、香りの強い花を多数開く。雌雄異株であるが、日本に生息するものはほとんどが雄株であり実を結ばない。名は、花の香りを沈香（じんこう）、形を丁字（ちょうじ）に例えたことに由来する。花言葉は「栄光」「永遠」。

○ 金鯨賞（GⅡ）

本競走は、昭和40年に創設された重賞競走。グレード制の導入後はGⅢで実施されていたが、平成8年にGⅡに格上げされた。それに伴い、負担重量がハンデキャップから別定となり、距離も当初の1800mから2000mに延伸された。創設時は春季に実施されていたが、24年に秋季へと移設され、29年から再び春季に実施されることとなった。なお、第1着馬には同年の大阪杯への優先出走権が与えられる。

競走名は、名古屋城のシンボルである「金の鯨（しゃちほこ）」に由来する。

○ 賢島特別

賢島（かしこじま）は、三重県志摩市の英虞湾（あごわん）内にある島。伊勢志摩国立公園の中心地で、多くの観光客で賑わっている。また、平成 28 年に開催された伊勢志摩サミットのメイン会場としても知られている。

<第 7 日>

○ 熊野特別

熊野（くまの）は、三重県南部の熊野灘に面する市。吉野熊野国立公園内に位置し、地域は豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。平成 16 年には熊野三山への参詣道である熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。

○ 名鉄杯

名鉄（めいてつ）は、名古屋鉄道株式会社の略称。名古屋市を中心として愛知、岐阜両県にまたがる路線を持ち、沿線には中京競馬場の最寄り駅である中京競馬場前駅がある。同競馬場のスタンド東側には名鉄の元特急電車 7000 系パノラマカーを保存展示した『パノラマステーション』が設置されている。なお、本競走は同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 岡崎特別

岡崎（おかざき）は、愛知県中南部の市。矢作川とその支流である乙川の流域に位置し、東海道の宿駅として発展した。徳川氏ゆかりの地で、家康の出生地でもあり、市内には岡崎城跡など多くの史跡が残っている。600 年ほど前から醸造されている八丁味噌が名産。

<第 8 日>

○ 大寒桜賞

大寒桜（おおかんざくら）は、バラ科サクラ属の落葉高木。花は半開状で下を向いて咲く。競走名は、平成 24 年の中京競馬場グランドオープンにあたり、中京馬主協会より 3・4 コーナーのコース外周沿いに大寒桜が寄贈されたことを記念して名付けられた。

○ 名古屋城ステークス

名古屋城（なごやじょう）は、名古屋市にある城。慶長 14 年（1609）に徳川家康の命で諸大名が築城し、完成後は尾張徳川家の居城となった。シンボルの「金の鯨（しゃちほこ）」が輝く天守閣は、現在も名古屋の顔となっている。平成 30 年にはかつての国宝であった本丸御殿が復元されるなど、近年一層注目が高まっている。

○ 高松宮記念（G I）

本競走は、昭和 42 年に創設された『中京大賞典』を前身とする重賞競走。46 年に高松宮殿下から優勝杯を賜ったのを機に『第 1 回高松宮杯』に改称された。以来、距離 2000m の別定重量戦で実施されていたが、平成 8 年に距離が 1200m に短縮されるとともに、G II から G I に格上げされ、中京競馬場初の G I 競走となった。また、10 年には競走名が『高松宮記念』に変更され、12 年には実施時期が 5 月から 3 月下旬へと移された。春の古馬短距離路線の頂点を決める競走であるとともに、春の G I シリーズの始まりを告げる一戦となっている。

○ 鈴鹿特別

鈴鹿（すずか）は、三重県北部の市。古くは伊勢国府・国分寺が置かれた。西部には、日本初の国際レーシングコースである鈴鹿サーキットがあり、自動車レース最高峰の F1 日本グランプリやオートレースの鈴鹿 8 時間耐久ロードレースなどが開催される。